

主日礼拝説教「イエス様のくびきと平安」 仙川教会 2024年3月17日

マタイによる福音書11章28～30節

東京女子大学 佐野 正子

本日は仙川教会の皆様と礼拝を共に守れますことを嬉しく思います。今私たちは、イエス様の十字架への歩みを覚えながら、私たち自身の生き方を振り返り受難節（レント）の日々を過ごしています。先ほど読んでいただきました聖書のみ言葉に、「**疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。**」とありました。この聖書のみ言葉はとても有名なみ言葉です。このみ言葉に慰めを感じてキリスト者となった方も多くおられます。たとえばノートルダム清心女子大学の学長を長く務めておられた渡辺和子先生は修道女ですが、このイエス様のみ言葉にとらえられて洗礼を受けてキリスト者となったということが、彼女の『愛することは許されること』という本の中に記されています。渡辺和子先生は次のように述べています。「この聖書の句は、かくてその時の私のすさんだ心に大きな慰めをもたらし、ちょうどその時、『自分』という『重荷』を負って苦勞していた私は、『わたしのもとに来なさい』という呼びかけを、ほかならない私への招きと受けとめ、『行こう』と決めたのです」と記されています。このようにこの聖書のみ言葉に慰めを感じ、とらえられて、彼女は洗礼を受け修道女になりました。

以前私が住んでいた駒込というところには、いくつもの急な坂がありました。重い荷物を持ちながら坂を上らなければいけない時は大変でした。しかしその重い荷物をもし誰かが一緒に担ってくれたならば、荷物は軽くなり、しかもその人の優しい心に触れて、坂を上ることが楽しくなることでしょう。荷物を誰かと一緒に持つとその荷物は軽くなるのです。

私たちの人生も同じことが言えます。時に私たちは、重い荷物を持って坂を上るような気持ちになる時があります。物事が順調にいつている時には重荷と感じなかったことでも、困難なことにぶつかった時には、与えられた課題や問題などを重荷と感じてしまう時があります。一人ひとりが重荷と感じてしまう事柄は異なっているでしょう。しかし子どもであっても、社会人であっても、年齢を重ねた人であっても、それぞれの人生の段階で、重荷を負っていると感

じることがあると思うのです。ひとりでその重荷を負うことが苦しくて疲れ切ってしまうということを私たちは経験します。

重荷を負って苦勞し疲れているすべての人に対して自分のもとに来るように招いておられるこのイエス様のみ言葉には、私たちの心をとらえる力があります。ここで言われている「休ませてあげよう」という言葉は、ただ休息を与えようというだけではなく、力を与えて元気づけるという意味を含んだ言葉です。安息や安らぎという意味が込められています。

しかし私にはしっくりいかない点がありました。小さな頃から親しんできたこの聖書のみ言葉について長い間分からないことがありました。それは、「**疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう**」というみ言葉のすぐ後に、「**わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしのくびきを負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる**」というみ言葉が続いているからです。

わたしのもとに来たらあなたがたを休ませてあげようとイエス様はおっしゃりながら、「わたしのくびきを負いなさい」とは、どういうことなのでしょう。イエス様のもとに来たらあなたの重荷を降ろしてあげましょうというのならば分かりますが、自分の重荷だけでも負担に感じているのに、その上イエス様のくびきを負いなさいと言われているのです。イエス様のくびきを負うことによって、私たちは安らぎを得られるとはどういうことを意味しているのでしょうか。

この疑問は私の抱いていた「くびき」のイメージから来るものでした。みなさんは「くびき」と聞くとどのようなイメージを持ちますでしょうか。くびきというのは、元来牛やロバの首に付けるものですが、自分の首にそのようなものを付けたならば邪魔で息苦しく、「休息」や「安らぎ」とはほど遠いもの、がんにがらめに縛られてしまうようなイメージが私の中にありました。

しかし実際の「くびき」はそうではありませんでした。くびきとは、荷を軽くするための道具なのです。木の棒と縄でできたくびきによって、2頭の雄牛やロバが一組に結び付けられ、すきや荷車が結び付けられました。くびきは、昔は畑の仕事になくてはならない道具でした。くびきとは、ひとりで重荷を負う代わりに一対となることによって荷を軽くするための道具だったのです。

「わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである」とみ言葉は続きます。「負いやすい」という言葉の原語の意味は、「よく体に合った」という意味です。当時のパレスチナでは、牛を飼うと寸法をはかり、その寸法によってくびきの原型を作り牛に当てはめてみてから丁寧に調整し、首がすりむけないようにぴったりと合わせて、くびきは作られたそうです。イエス様のくびきは負いやすいとは、くびきが私たちの肩に優しくぴったり合っているという意味を表しています。体に合ったくびきを負うことによって、荷物をより簡単に運ぶことができるようになるのです。

「わたしのくびきを負い、わたしに学びなさい」というイエス様のみ言葉は、イエス様と私たちがくびきによって結び付けられ、イエス様が一緒にその重荷を負ってくださるということを意味しているのです。ひとりぼっちで耐え切れないような重荷を負って疲れ果てて生きていくのではなく、共に重荷を負って歩んでくださるお方がおられるということは、真の心の安らぎとなります。

当時ユダヤ人が「くびき」という言葉を用いるときには「服従」という意味が含まれていました。すなわちイエス様のくびきを負うとは、イエス様に従うということを意味しているのです。「私のくびきを負い、私に学びなさい」と言われているのは、イエス様に従い、イエス様と共に歩むことによって、イエス様の生き方そのものを学ぶことを意味します。「休ませる」というのであれば、くびきを取ってしまうのかと思うとそうではないのです。くびきをはずされた新米の牛は、ふらふらと横道にそれて、ふちから滑り落ちてしまうかもしれませぬ。くびきを負わない状態は、「羊飼いのいない迷子の羊」の状態とも言うことができます。私たちはまことのくびきを必要としているのです。

農夫は子どもと一緒に並んですきを持たせ、そのやり方を学ばせます。そのようにイエス様が私たちのすぐ隣にいて共に歩んでくださることによって、私たちはイエス様の生き方を学ぶことができます。イエス様から私たちはどのような生き方を学ぶのでしょうか。それは 29 節に「わたしは柔和で謙遜な者だから」とあるように、「柔和で謙遜な者となる」ことを学ぶのです。

このこととは逆の内容が、マタイによる福音書 23 章 4 節にあります。イエス様は、律法学者やファリサイ派の人々の態度を批判して、「彼らは背負いきれない重荷をまとめ、人の肩に載せるが、自分ではそれを動かすために、指一本貸

「そうともしない」と述べています。イエス様は、まさに律法学者やファリサイ派の人々とは正反対の生き方を示しています。重荷を共に担いあうという生き方です。「イエス様のくびきを負う」とは、イエス様のくびきにつながってイエス様が共に重荷を負ってくださるということなのです。

「イエス様のくびきを負う」ということをさらに考えていくと、イエス様のくびきにつながってイエス様が共に重荷を負ってくださるだけではなく、イエス様と共に、この世界に神様の愛を実現して神の国をもたらすというイエス様のみわざに参加するということをも意味しているのではないかと思います。くびきによって一対となった2頭の牛は、くびきにつながれたすきによって、固く干からびた土を掘り起こし、柔らかな土に蒔かれた種がしっかりと根を張ることができるように働きました。イエス様が種まきのたとえで語っておられるように、イエス様のまかれた種が30倍、60倍、100倍にも実を結ぶような良い地となるように、この世界を耕して愛の種をまくわざに参加していく。イエス様のくびきを負うということは、この世界という畑が良い土になり豊かな実を結ぶように、イエス様と共に働くということも意味していると思うのです。ここに、わたしたちの生き方が示されています。

私たちは、イエス様に重荷を共に担っていただき、柔和で謙遜な者となることを学びながら、互いの重荷を担い合うことが求められています。そこにはひとりでは背負いきれないような重荷を負いながら、人生を寂しく歩んでいくのとは違った生き方が見えてきます。

アレックスというアメリカ人の女の子のことをご紹介したいと思います。アレックスは、1歳の誕生日を2日後に迎えようとしていた時、小児ガンであると診断されました。この小さなアレックスは4歳になった時に、自分のように小児ガンで苦しんでいる子どもたちのために、何か自分にできることはないかと思い、「アレックスのレモネード・スタンド」という名をつけて、自宅の庭にテーブルを出してレモネードを売ることにしました。レモネードとは、レモンを炭酸ジュースで割ったもので、アメリカでは子どもたちに人気のジュースです。それから4年間アレックスは8歳で亡くなるまで、週末に「アレックスのレモネード・スタンド」でレモネードを売り続けたということです。小児ガンで苦しんでいる子どもたちのために、この小さな女の子がひとりで始めたこの活動

は、次第にアメリカじゅうに感動をもって広まり、多くの寄付が小児ガンの子どもたちのために集まったそうです。小さな子どもにとって小児ガンに侵されるということは、肉体的にも精神的にもつらい重荷です。しかし小児ガンという重荷を負ったひとりの小さな女の子が、自分も病魔と闘いながらも、自分と同じように苦しんでいる他の子どもたちのために何か自分でできることはないかと考え、小児ガンの子どもをひとりでも助けたいと願ったアレックスの優しい思いやりが、大人たちに感動を与えて、ひとつの運動へと発展していきました。他者の重荷を共に担いたいという愛の心は、人の心を変えていく力があることが分かります。

イエス様は、「私があなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」(ヨハネ 15:12) と言われました。イエス様のくびきを負い、イエス様の生き方に従っていくことによって、私たちが互いに仕えあい、愛し合う生き方へと変えられていくことを求めたいと思います。イエス様が私たちの重荷を負い、共に歩んでくださっていることを覚えつつ、平安のうちに今週の歩みを始めてまいりましょう。